

## 2018年度 講義概要（シラバス）

科目名	国際化時代の平和
担当者	竹本真希子（広島平和研究所准教授）、広島平和研究所研究員
履修時期	後期
履修対象	1・2年
概要	広島の被爆体験をはじめ、世界が経験した多様な悲惨な体験とその記憶の継承、現在の社会への影響について学ぶことにより、悲惨な体験と記憶の継承が、平和の喪失から平和の創造へと転じる上で果す役割について考える。
到達目標	世界のさまざまな悲惨な体験や人権抑圧などの事例がどのように記憶化され継承されているか、また現在の社会にどのような影響を与えているかを学び、広島 の被爆体験を出発点としつつ、世界の多様な事例を踏まえながら国際的な平和を 創造するための課題について議論する基礎知識を得る。
受講要件	特になし。
事前・事後学修	日々世界で起こる多様な平和の喪失および平和の創造の事例に関心を持ち、自ら 調べる。
講義内容	以下の講義を予定している。順序および内容は変更の可能性あり。講義内でア ウンスする。  ガイダンス： 国際化時代の平和・・・竹本真希子（広島平和研究所准教授） 民族浄化とジェノサイド・・・吉川元（広島平和研究所所長・教授） 国際平和の手立て・・・吉川元 ナチズムとホロコースト・・・竹本真希子 ヒロシマとマニラ—第二次世界大戦の喪失体験と記憶・・・永井均（広島平和 研究所教授） 原爆体験とトラウマ・・・直野章子（広島平和研究所教授） スターリン主義を考える（1）：大テロルと「収容所群島」・・・湯浅剛（広島平 和研究所教授） スターリン主義を考える（2）：大飢饉、歴史の見直し、そしてスターリン再評 価・・・湯浅剛 ヨーロッパの平和と統合運動・・・竹本真希子 韓国の民主化運動と現在・・・孫賢鎮（広島平和研究所・准教授） 北朝鮮の人権抑圧・・・孫賢鎮 中国のヒロシマ・ナガサキ記憶・・・徐顕芬（広島平和研究所・准教授） 勝利・敗戦の記憶と歴史認識・・・竹本真希子 平和博物館と記憶の継承・・・竹本真希子 討論とまとめ・・・竹本真希子
評価方法	平常点および学期末のレポート提出。
教科書等	教科書は使用しない。参考文献：広島市立大学広島平和研究所（編）『平和と安 全保障を考える事典』（法律文化社、2016年）。参考文献はさらに講義内で適宜紹 介する。
担当者プロフィール	広島平和研究所准教授。ドイツ近現代史、平和思想・平和運動史が専門。
備考	